

「ホタルにワクワク」(和田)

先日、ホタルを見ました。初夏の風物詩ですよ。ホタルは5~7月が見頃みたいで、梅雨の時期がピークだそうです。ホタルを調べてみると、西日本と、東日本で光る間隔が異なるようです。西日本では2秒に1回に対して、東日本は4秒に1回という研究結果があるそうです。西日本の方がせっかちなんでしょうか。謎は解明されていないそうです。しかもホタルの命は約1週間…短いんですね。暑いからってバテてる場合じゃありません。和田君眩しいわあ！！と言っただけのように僕もホタルに負けず2秒に1回光りたいと思います。ちなみにモグラも西と東でわけることができますようです。この話は次回のお楽しみで…。



今さら聞けない 経済用語

【今月の教えてキーワード：産業革新機構】

日本の産業競争力を高めることを目的とする投資ファンドのこと。産業活力再生法に基づき、15年間の時限組織として2009年に官民の共同出資で設立された。大学やベンチャー企業が保有する革新的な技術に資金を供給して実用化を支援するとともに、大企業の技術を生かすための事業再編を支援したり取締役の派遣など経営への参画や助言も行う。総額で約2兆円の投資能力があり、2015年末で約8000億円を出資している。

偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

【常勝将軍：源義経】

壇ノ浦の戦いで平氏を打ち取るも、実兄・頼朝の不興を買い非業の死を遂げた源義経は1159年、源義朝と常盤御前との間に生まれました。義経が生まれた年に平治の乱が勃発、生まれて1年足らずで父は平氏に敗れて



無念の最期を迎えます。こうして生まれながらにして一家離散という不幸な境遇に置かれた義経は、母とも引き離され、僧になる修行をするため

10歳で京都の鞍馬寺に預けられます。ここで初めて自分の父親が平氏に敗れたことを知り、父の敵討ちを心に決めて鞍馬の山奥で密かに剣術の

修行に励みました。15歳の頃、このまま出家してしまったら平氏打倒を果たせないと考え、つてを頼って奥州に向かい藤原秀衡(ひでひら)に保護されます。ここでさらなる鍛錬を積んだ義経は、頼朝が平氏討伐に打って出たという報せを聞き、頼朝のもとに駆け付けたのでした。ここから軍略家としての才能を開花させたものの、平氏討伐最大の功労者となる一方で頼朝との間に生まれた溝は埋まることなく、武将として活躍したのはわずか2年、30歳という短い生涯を終えました。義経は、セオリーに捉われない革新的な戦術で知られていますが、相手の裏を突く「兵は詭道(きどう)なり」や、スピードと機動性を重視した「兵は拙速(せつそく)を尊ぶ」といった兵法は、現代のビジネスにおいても参考になっています。

今を生きる

先人の言葉

笑いは、二人の人間をもっとも近づける

デンマーク系ユダヤ人のピアニストであるヴィクター・ボーグの言葉。どんな良いことをしても、しかめっ面では誰も寄っては来ない。笑顔が嫌いな人はいない。

トレンドを斬る!

週末の夜に翌朝まで銭湯で過ごす女子会「銭湯オール」がブームです。まずはお風呂で温まると岩盤浴やサウナでリラックス、

その後は飲んだり食べたりしながら本音トークに花を咲かせます。ビールやチューハイ、スムージーなど湯上りの一杯を楽しむ食事処やマッサージ、漫画読み放題などの施設はサービスにしのぎを削り、プチ旅行気分若く若い女性が殺到しています。至福の時に身も心も癒された翌朝はリフレッシュして活動開始。銭湯は今や都会のオアシスに変貌です。



365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント: 【人の一寸我が一尺】

武士で教育者だった吉田松陰は、多くの優秀な弟子を育てたことで知られる「人育て」の達人でした。

その松陰が人育ての極意としていたのは「他人の欠点を指摘せず、長所を伸ばす」でした。まさにその通りだと思いますが、実際には人の長所より欠点に目が行くほうが多いように思います。人の良いところを見つけてほめるより、欠点を指摘するほうがずっと簡単なのは「人の一寸我が一尺」だからでしょう。人の欠点はほんのわずかでも目に付くけれど、自分の欠点は大きなものでも気が付きにくい。これが「人の一寸我が一尺」です。



世の中には他人の欠点を指摘することに意欲を發揮する人がいるようです。自分のことは棚に上げ、人の欠点を目ざとく見付けては指摘する人は「親切に教えてあげているのだから感謝してね」と思っているかもしれませんが、実はその態度が最大の欠点かもしれないことに本人は気付いていないようです。もし「これはどうしても言ってあげたほうがいい」と思うなら、相手を否定することなく心に届くように伝える技術が必要です。しかし、人の欠点を指摘するのは簡単でも、それを上手に伝えるのはとても難しいもので、だからこそ相手の欠点を上手に伝えられる人は信頼されて一目置かれるのでしょう。

相手の気になる欠点が、裏を返せば自分の欠点だったという場合も少なくありません。自分が気にしているからこそ、相手と同じことをしたら気になって仕方ないのですが、お互いの欠けている部分を否定しあっていたら人間関係はあっという間に崩れ去ります。従業員、部下、取引先、顧客。商売はいろいろな人間関係が交差する立体交差点のようなもの。「人の一寸我が一尺」ではあっという間に事故が起こるでしょう。あなたの周囲の人たちもあなたの欠点を見逃してくれているはずですが、世の中は、持ちつ持たれつ。できるだけ相手の良いところを見てお付き合いをしていくことは、相手のためというより自分の器を大きくするチャンスだと捉えたいものですね。



トナリの

本棚



【LIFE SHIFT (ライフシフト) 100年時代の人生戦略】

2052年には100歳以上の日本人が70万人に達するとか。これまでの「20年学び、45年働き、老後を15年過ごす」という人生モデルは難しくなる。長寿化時代を生き抜くための具体策が書かれた一冊です。

船越税理士事務所

〒620-0054

京都府福知山市末広町1-1-1 中川ビル3階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: info@f-office301.com

皆様のご感想をお待ちしております◎◎◎◎◎◎